

栃木県における社会教育の今後のあり方

Life Long Education For All

－少子高齢化、知識社会化、グローバル化に対応した社会教育をめざそう－

栃木県社会教育委員
林 明夫

1. 栃木県における社会教育の今後のあり方を考えるにあたって

時代の要請(つまり、少子高齢化、知識社会化、グローバル化)に十分対応した生涯教育としての社会教育をすべての栃木県民に、(Life Long Education For All)という考えを基本に据えて検討することを提言したい。

2. 時代の要請する社会教育とは

(1)少子高齢化に対応した社会教育

* 60歳を迎える人、60歳以上の人々への100歳までどう生きるかの教育が最重要

(2)知識社会化に対応した社会教育

(3)グローバル化に対応した社会教育

(4)不足している視点を補うべき

①障害者の視点

②外国人(外国から来ている人)の視点

③働くスキルを身に付けたいと希望する人の視点

* ニート・フリーターへの教育も社会教育

* 高度職業専門人をめざす人への教育も社会教育

3. 生を受けてから天命を全うする全期間、つまり生涯にわたり「善く生きる」ことを社会教育の目的とする。

4. 社会教育は「生涯学習(Life long Education)」。「教育ある人間」とは、生涯にわたって「勉強し続ける人間」である。

5. 大学等の高等教育機関との連携も強化すべき。

* Life Long Education の担い手の一つとして大学を位置づける。

6. 社会教育を受けるチャンスを全県民に担保することが行政の使命(mission ミッション)。

以上